

資料第985号

平成12年国勢調査

- 従業地・通学地集計結果(その1) -

(広島県)

平成14年9月

広島県地域振興部生活統計室

目 次

用語の解説

結果の概要

1	通勤・通学人口	1
2	流出・流入人口	11
3	昼間人口	15

統計表

第1表	従業地・通学地別 15歳以上就業者及び15歳以上通学者	19
第2表	従業地,男女,産業(大分類)別 15歳以上就業者数	21
第3表 - 1	常住市町村による従業地・通学地別 15歳以上就業者及び15歳以上通学者	23
第3表 - 2	常住市町村による従業地別 15歳以上就業者	27
第3表 - 3	常住市町村による通学地別 15歳以上通学者	31
第4表 - 1	流出・流入別 15歳以上就業者及び15歳以上通勤者	35
第4表 - 2	流出・流入別 15歳以上就業者	37
第4表 - 3	流出・流入別 15歳以上通学者	39
第5表	市町村,流出・流入別 15歳以上就業者・通学者数の推移	41
第6表	市区町村別,昼間人口,夜間人口及び昼夜間人口比率の推移	45

〔用語の解説〕

従業地・通学地集計とは

我が国の人口の通勤・通学による日々の移動状況を把握するため、国勢調査の結果の中から通勤者及び通学者の人口を通勤先・通学先などの別に集計し、統計として取りまとめたものをいう。

通勤・通学人口

15歳以上就業者のうち自宅外で従業している「通勤者」の人口と学校（各種学校・専修学校を含む。）に通っている15歳以上で就業者以外の「通学者」の人口をいう。

流出入口・流入人口

A市における「流出入口」とはA市に常住しA市以外へ流出する「通勤・通学人口」をいい、「流入人口」とはA市以外に常住しA市に流入する「通勤・通学人口」をいう。

昼間人口

「昼間人口」とは、次の式から算出された人口である。すなわち、常住地からの通勤・通学による流出・流入人口を加減して算出した「従業地・通学地による人口」をいう。

これに対し、「常住人口」とは、常住地による人口であり、「昼間人口」と対比して「夜間人口」ともいう。

したがって、「昼間人口」と「夜間人口」は全国の総数では一致する。

なお、従業地・通学地集計で用いる「常住人口」及び「昼間人口」には、年齢不詳の者を含まない。

A市の昼間人口 = A市の常住人口 - A市からの流出入口 + A市への流入人口
(ただし、ここで用いる流出入口及び流入人口には15歳未満の者を含む。)

昼夜間人口比率

次の式により算出され、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示す。

A市の昼夜間人口比率 = (A市の昼間人口 / A市の夜間人口) × 100

注意 この報告書における割合等の数値は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、必ずしも内訳の合計が総数(100%)とは一致しない。

結 果 の 概 要

1 通勤・通学人口

(1) 従業地・通学地別就業者・通学者数

～他市町村への通勤・通学者が2割を超える～

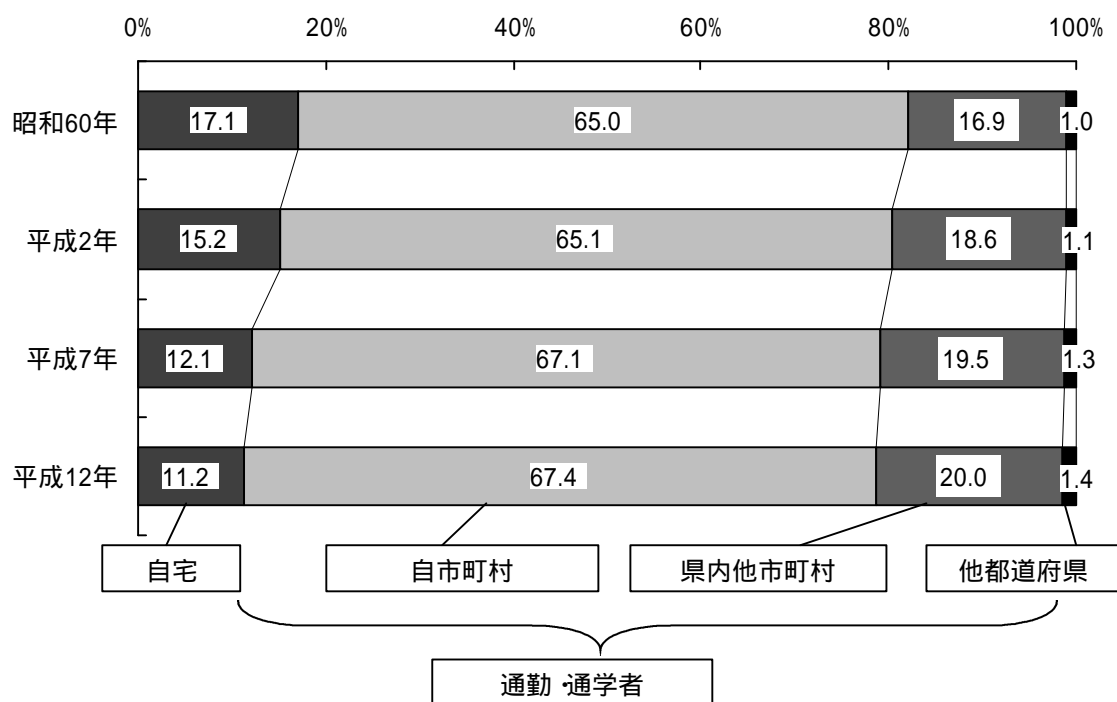
平成12年国勢調査による広島県の15歳以上の就業者・通学者数(以下、特に注釈のない限り15歳以上の就業者・通学者をいう。)は1,603,238人(就業者1,428,326人、通学者174,912人)で、平成7年と比べると71,273人(4.3%)減少している。

就業者のうち自宅で就業している自宅就業者は179,826人で、それを除いた自宅外で従業している通勤者(1,248,500人)と通学者を合わせた1,423,412人が、日々往復移動をしている通勤・通学人口となっている。

従業地・通学地別にみると、自宅外の自市町村(政令指定市内他区を含む。)で従業・通学している人は1,080,763人(就業者・通学者総数の67.4%)、県内他市町村は320,287人(同20.0%)、他都道府県は22,362人(同1.4%)となっている。

昭和60年以降の就業者・通学者の従業地・通学地別の割合の推移をみると、自宅就業者が縮小、通勤・通学者が拡大を続けており、自市町村が2.4ポイント、県内他市町村が3.1ポイント、他都道府県が0.4ポイント拡大している。(統計表：第1表)

図1 15歳以上就業者・通学者の従業地・通学地別割合の推移



(2) 従業地別通勤者数

～ 自市町村内通勤者は減少，県内他市町村・他都道府県通勤者は増加～

通勤者 1,248,500 人の従業地をみると，自市町村が 950,077 人（通勤者の 76.1%），県内他市町村が 280,418 人（同 22.5%），他都道府県が 18,005 人（同 1.4%）となっている。

平成 7 年と比べると，通勤者全体では，21,870 人（ 1.7%）の減少に転じているが，内訳をみると，自市町村が 27,696 人（ 2.8%）減少する一方，県内他市町村は 4,044 人（1.5%），他都道府県は 1,782 人（11.0%）増加している。（統計表：第 1 表）

(3) 通学地別通学者数

～ 県内他市町村・他都道府県通学者が大きく減少～

通学者 174,912 人の通学地をみると，自市町村が 130,686 人（通学者全体の 74.7%），県内他市町村が 39,869 人（同 22.8%），他都道府県が 4,357 人（同 2.5%）となっている。

平成 7 年と比べると，通学者全体では 26,989 人（ 13.4%）の減少となっているが，内訳をみると，自市町村が 15,046 人（ 10.3%），県内他市町村が 10,159 人（20.3%），他都道府県が 1,784 人（ 29.1%）の減少で，県内他市町村及び他都道府県通学者が大きく減少している。（統計表：第 1 表）

表 1 従業地・通学地別，15 歳以上通勤・通学者数及び割合

(単位：人，%)

従業地 通学地	実 数			増加数		増加率	
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年
通勤者	1,248,500	1,270,370	1,165,794	-21,870	104,576	-1.7	9.0
自市町村	950,077	977,773	902,883	-27,696	74,890	-2.8	8.3
県内他市町村	280,418	276,374	250,145	4,044	26,229	1.5	10.5
他都道府県	18,005	16,223	12,766	1,782	3,457	11.0	27.1
通学者	174,912	201,901	221,240	-26,989	-19,339	-13.4	-8.7
自市町村	130,686	145,732	162,315	-15,046	-16,583	-10.3	-10.2
県内他市町村	39,869	50,028	53,825	-10,159	-3,797	-20.3	-7.1
他都道府県	4,357	6,141	5,100	-1,784	1,041	-29.1	20.4

従業地 通学地	割 合		
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)
通勤者	100.0	100.0	100.0
自市町村	76.1	77.0	77.4
県内他市町村	22.5	21.8	21.5
他都道府県	1.4	1.3	1.1
通学者	100.0	100.0	100.0
自市町村	74.7	72.2	73.4
県内他市町村	22.8	24.8	24.3
他都道府県	2.5	3.0	2.3

(4) 従業地，男女別就業者数

～女性の他市町村への通勤者が大きく増加～

就業者の従業地を男女別にみると，男性は自宅就業者が 91,160 人，通勤者が 738,911 人で，平成 7 年と比べそれぞれ 8,552 人（ 8.6% ），29,323 人（ 3.8% ）減少している。

女性は自宅就業者が 88,666 人，通勤者が 509,589 人で，平成 7 年と比べ自宅就業者は 13,862 人（ 13.5% ）減少しているが，通勤者は 7,453 人（ 1.5% ）増加しており，通勤者のうちでも特に，県内他市町村及び他都道府県通勤者は，それぞれ 7.4% ，17.3% と大きく増加している。

従業地別割合をみると，男性は，自宅就業者が 11.0% ，自宅外の自市町村通勤者が 64.1% ，県内他市町村通勤者が 23.2% ，他都道府県通勤者が 1.7% ，女性は自宅就業者が 14.8% ，自宅外の自市町村通勤者が 69.8% ，県内他市町村通勤者 14.7% ，他都道府県通勤者が 0.6% となっており，女性は男性と比べ，自宅及び自市町村の割合が高くなっている。

平成 2 年以降の割合の推移をみると，男女とも自宅就業者の割合が縮小，通勤者の割合が拡大しており，男性は通勤者の割合が 3.2 ポイント，女性は 7.7 ポイント拡大している。（統計表：第 1 表）

表 2 従業地，男女別 15 歳以上就業者数の推移

（単位：人，%）

従業地	実数			増加数		増加率	
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年
男	830,071	867,946	838,093	-37,875	29,853	-4.4	3.6
自宅	91,160	99,712	118,639	-8,552	-18,927	-8.6	-16.0
通勤者	738,911	768,234	719,454	-29,323	48,780	-3.8	6.8
自市町村	532,477	560,999	527,488	-28,522	33,511	-5.1	6.4
県内他市町村	192,218	194,242	181,576	-2,024	12,666	-1.0	7.0
他都道府県	14,216	12,993	10,390	1,223	2,603	9.4	25.1
女	598,255	604,664	576,175	-6,409	28,489	-1.1	4.9
自宅	88,666	102,528	129,835	-13,862	-27,307	-13.5	-21.0
通勤者	509,589	502,136	446,340	7,453	55,796	1.5	12.5
自市町村	417,600	416,774	375,395	826	41,379	0.2	11.0
県内他市町村	88,200	82,132	68,569	6,068	13,563	7.4	19.8
他都道府県	3,789	3,230	2,376	559	854	17.3	35.9

従業地	割合		
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)
男	100.0	100.0	100.0
自宅	11.0	11.5	14.2
通勤者	89.0	88.5	85.8
自市町村	64.1	64.6	62.9
県内他市町村	23.2	22.4	21.7
他都道府県	1.7	1.5	1.2
女	100.0	100.0	100.0
自宅	14.8	17.0	22.5
通勤者	85.2	83.0	77.5
自市町村	69.8	68.9	65.2
県内他市町村	14.7	13.6	11.9
他都道府県	0.6	0.5	0.4

(5) 従業地，産業別就業者

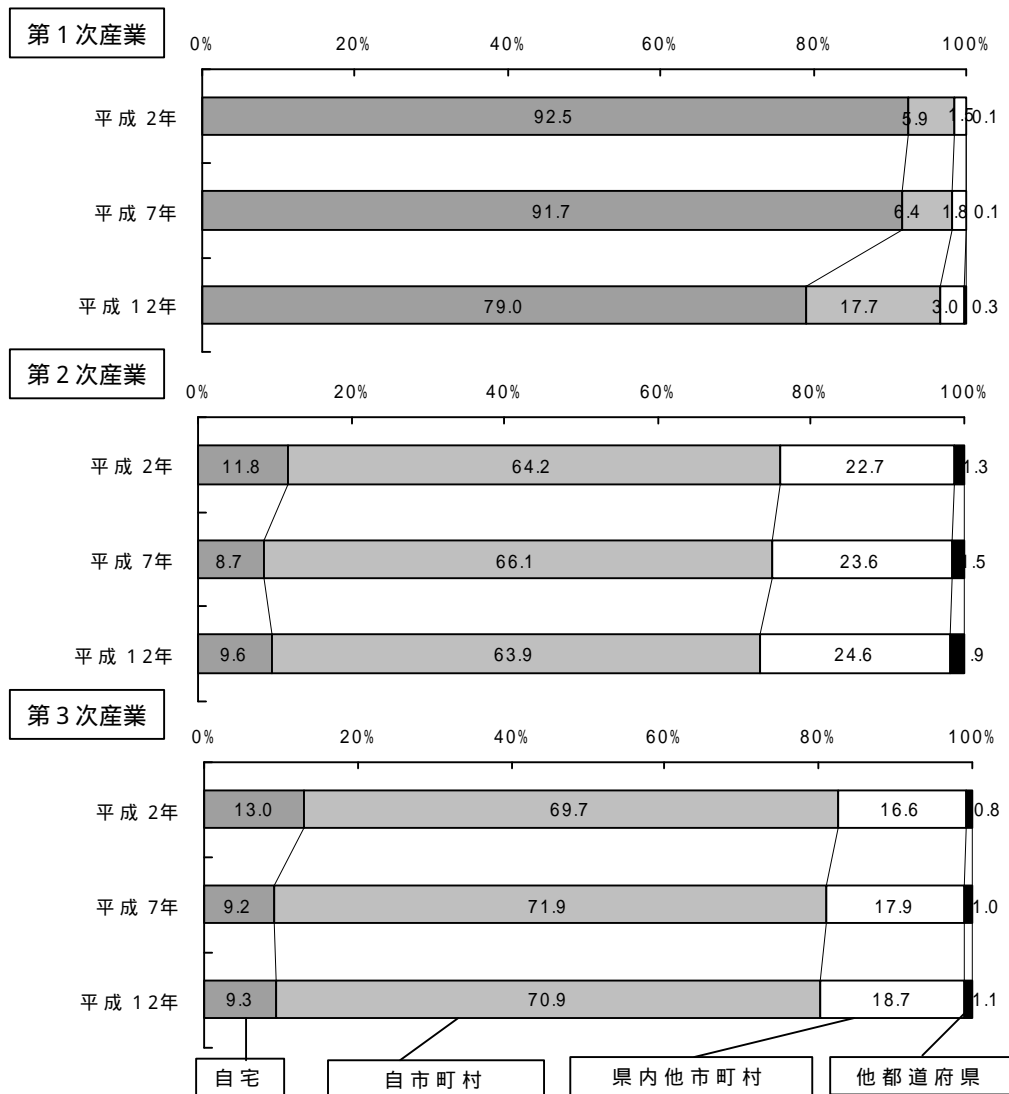
～ 第1次産業で通勤者の割合が拡大～

就業者の従業地別割合を産業3部門別にみると，第1次産業では自宅就業者が79.0%と就業者の8割近くを占めているのに対し，第2次産業及び第3次産業では，自宅就業者の割合はそれぞれ9.6%，9.3%と低く，ほとんどが通勤者となっている。

平成2年以降の推移をみると，第1次産業では，平成2年，平成7年には自宅就業者が9割以上を占めていたが，平成12年には79.0%と13.5ポイント縮小しており，通勤者の割合が増えている。

第2次産業では約6割，第3次産業では約7割が自市町村通勤者で，ほぼ横ばいで推移しているが，県内他市町村及び他都道府県通勤者の割合は拡大している。(統計表：第2表)

図2 産業3部門別，15歳以上就業者の従業地別割合



(6) 市町村別通勤・通学人口

就業者・通学者の従業地・通学地別割合

～ 広島市の就業者・通学者の8割以上が自宅外の自市内に通勤・通学～

就業者・通学者の従業地・通学地別割合を市町村別にみると、自宅就業者の割合が最も高いのは豊町の64.7%で、次いで豊松村(44.2%)、神石町(42.1%)となっている。

自宅以外の自市町村内に通勤・通学している人の割合が最も高いのは、広島市の83.0%で、次いで福山市(76.2%)、豊浜町(75.3%)となっている。

県内の他市町村へ通勤・通学している人の割合が最も高いのは、坂町の65.4%で、次いで府中町(59.7%)、川尻町(58.4%)となっている。

他都道府県に通勤・通学している人の割合が最も高いのは、大竹市の14.6%で、次いで神辺町(7.1%)、豊浜町(6.1%)となっている。(統計表：第3 1表)

表3 就業者・通学者の従業地・通学地別割合の高い市町村(上位10位)

(単位：%)

順位	自宅		自市町村(自宅外)		県内他市町村		他都道府県	
	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合
1	豊 町	64.7	広 島 市	83.0	坂 町	65.4	大 竹 市	14.6
2	豊 松 村	44.2	福 山 市	76.2	府 中 町	59.7	神 辺 町	7.1
3	神 石 町	42.1	豊 浜 町	75.3	川 尻 町	58.4	豊 浜 町	6.1
4	油 木 町	41.8	呉 市	73.2	安 浦 町	57.5	福 山 市	3.8
5	高 野 町	41.0	三 原 市	68.6	海 田 町	57.3	大 野 町	3.7
6	蒲 刈 町	38.4	三 次 市	68.2	熊 野 町	56.8	作 木 村	3.6
7	甲 奴 町	38.2	東 広 島 市	67.0	大 野 町	56.2	因 島 市	3.3
8	高 宮 町	37.6	因 島 市	65.4	廿 日 市 市	55.3	吉 和 村	2.0
9	世 羅 西 町	37.3	庄 原 市	64.3	内 海 町	54.7	布 野 村	2.0
10	(神)三和町	36.7	尾 道 市	61.1	音 戸 町	53.7	廿 日 市 市	1.8

同率の場合は、小数点第2位を算出して順位をつけた。

就業者の従業地別割合

～大竹市の就業者の15.3%が他都道府県通勤者～

就業者の従業地別割合を市町村別にみると、自宅就業者の割合が最も高いのは豊町の66.3%で、次いで豊松村(47.6%)、油木町(44.7%)となっている。

自宅以外の自市町村通勤者の割合が最も高いのは、広島市の81.8%で、次いで豊浜町(76.6%)、福山市(75.3%)となっている。

県内他市町村通勤者の割合が最も高いのは、坂町の63.2%で、次いで府中町(59.7%)、海田町(57.3%)となっている。

他都道府県通勤者の割合が最も高いのは、大竹市の15.3%で、次いで神辺町(6.4%)、豊浜町(6.3%)となっている。(統計表：第3 2表)

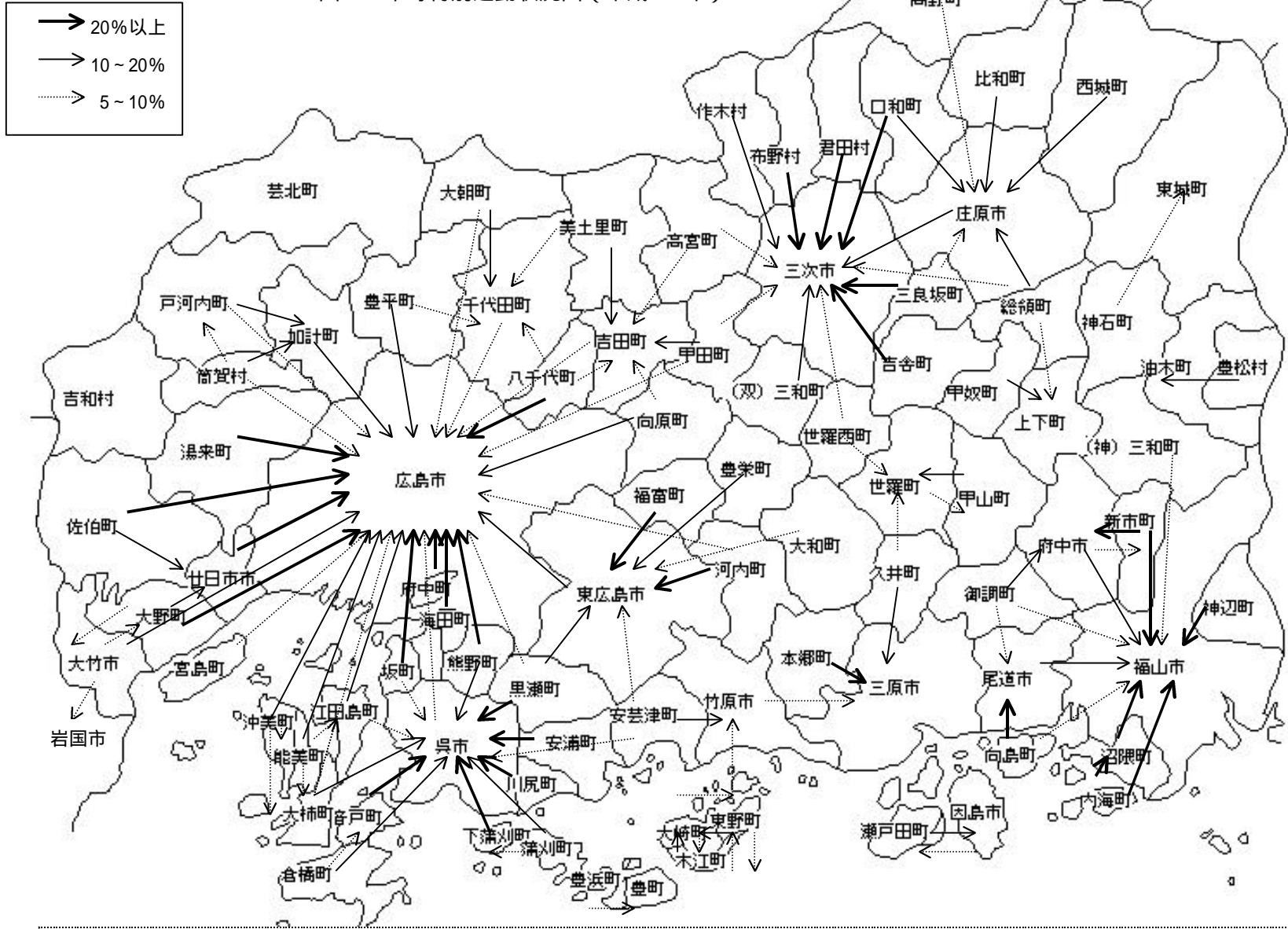
表4 就業者の従業地別割合の高い市町村(上位10位)

(単位：%)

順位	自宅		自市町村(自宅外)		県内他市町村		他都道府県	
	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合
1	豊町	66.3	広島市	81.8	坂町	63.2	大竹市	15.3
2	豊松村	47.6	豊浜町	76.6	府中町	59.7	神辺町	6.4
3	油木町	44.7	福山市	75.3	海田町	57.3	豊浜町	6.3
4	神石町	44.3	呉市	73.3	熊野町	56.4	大野町	3.9
5	高野町	43.9	三原市	69.5	廿日市市	55.9	作木村	3.6
6	蒲刈町	42.0	三次市	67.2	川尻町	54.4	福山市	3.2
7	甲奴町	40.8	因島市	65.4	安浦町	54.0	因島市	2.5
8	世羅西町	39.7	東広島市	64.2	黒瀬町	53.5	布野村	2.1
9	高宮町	39.3	吉和村	62.3	大野町	53.3	豊松村	1.8
10	(神)三和町	39.0	庄原市	60.7	音戸町	52.6	廿日市市	1.8

同率の場合は、小数点第2位を算出して順位をつけた。

図4 市町村別通勤状況図（平成12年）



ある市町村（仮にA市とする。）の就業者のうち、他の市町村（仮にB市とする。）へ通勤する者の比率（B市への通勤者 / A市の就業者 × 100）により、通勤者の通勤状況を矢印であらわした。（ただし、B市への通勤者が5%未満の場合及び10人に満たない場合を除く。）

通学者の通学地別割合

～ 神辺町の通学者の 13.5%が他都道府県通学者～

通学者の通学地別割合を市町村別にみると、自市町村通学者の割合が最も高いのは、芸北町の 95.5%で、次いで大朝町（92.2%）、庄原市（92.1%）となっている。

県内他市町村通学者の割合が最も高いのは、布野村の 90.5%で、次いで川尻町（89.3%）、沖美町（88.7%）となっている。

他都道府県通学者の割合が最も高いのは、神辺町の 13.5%で、次いで因島市（11.7%）、吉和村（9.5%）となっている。（統計表：第 3 3 表）

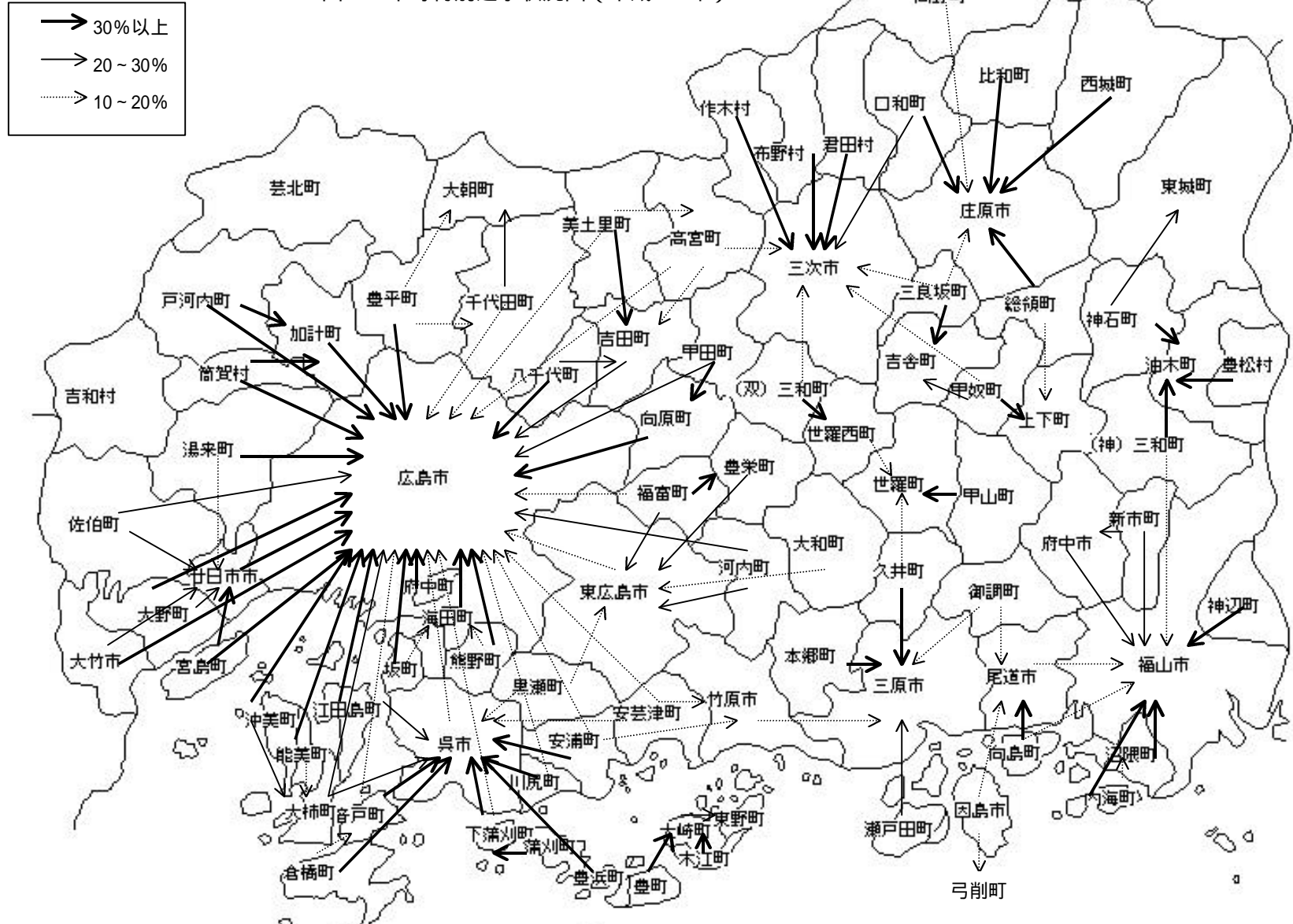
表 5 通学者の通学地別割合の高い市町村（上位 10 位）

（単位：％）

順位	自市町村		県内他市町村		他都道府県	
	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合
1	芸北町	95.5	布野村	90.5	神辺町	13.5
2	大朝町	92.2	川尻町	89.3	因島市	11.7
3	庄原市	92.1	沖美町	88.7	吉和村	9.5
4	広島市	91.8	宮島町	88.0	福山市	8.9
5	東城町	89.0	安浦町	86.9	大竹市	7.7
6	油木町	85.8	能美町	86.7	向島町	5.4
7	世羅町	84.6	蒲刈町	86.4	沼隈町	5.3
8	吉舎町	83.9	下蒲刈町	85.7	神石町	4.9
9	東野町	83.5	甲田町	85.6	尾道市	4.6
10	福山市	83.5	美土里町	84.5	新市町	4.5

同率の場合は、小数点第 2 位を算出して順位をつけた。

図5 市町村別通学状況図（平成12年）



ある市町村（仮にA市とする。）の通学者のうち、他の市町村（仮にB市とする。）へ通学する者の比率（B市への通学者 / A市の通学者 × 100）により、通学者の通学状況を矢印であらわした。（ただし、B市への通学者が10%未満の場合及び10人に満たない場合を除く。）

2 流出・流入人口

(1) 通勤・通学者の流出・流入

～9,841人の流入超過，流入超過数は大きく縮小～

他都道府県を従業地・通学地として広島県から流出している通勤者・通学者は22,362人で，平成7年と比べ2人（0.0%）減少している。

流出人口を県別にみると，岡山県への流出が最も多く11,105人で，流出人口の49.7%を占めており，次いで山口県の5,943人（同26.6%），島根県の873人（同3.9%）となっている。

一方，広島県を従業地・通学地として他都道府県から流入している通勤者・通学者は32,203人で，平成7年と比べ2,312人（6.7%）減少している。

流入人口を県別にみると，岡山県からの流入が最も多く14,101人で，流入人口の43.8%を占めており，次いで山口県の10,879人（同33.8%），愛媛県の1,432人（同4.4%）となっている。

この結果，通勤・通学者は9,841人の流入超過となっているが，平成7年と比べると2,310人（19.0%）縮小している。（統計表：第4-1表）

表6 本県からの隣接県への流出人口及び隣接県から本県への流入人口

（単位：人，%）

都道府県	実数			増加数		増加率		割合 (平成12年 2000)
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	
流出人口	22,362	22,364	17,866	-2	4,498	-0.0	25.2	100.0
鳥取県	203	141	64	62	77	44.0	120.3	0.9
島根県	873	651	394	222	257	34.1	65.2	3.9
岡山県	11,105	11,006	8,978	99	2,028	0.9	22.6	49.7
山口県	5,943	6,187	5,250	-244	937	-3.9	17.8	26.6
香川県	177	169	81	8	88	4.7	108.6	0.8
愛媛県	829	775	614	54	161	7.0	26.2	3.7
その他	3,232	3,435	2,485	-203	950	-5.9	38.2	14.5
流入人口	32,203	34,515	30,834	-2,312	3,681	-6.7	11.9	100.0
鳥取県	104	75	80	29	-5	38.7	-6.3	0.3
島根県	1,351	1,565	1,481	-214	84	-13.7	5.7	4.2
岡山県	14,101	14,919	13,174	-818	1,745	-5.5	13.2	43.8
山口県	10,879	11,744	11,309	-865	435	-7.4	3.8	33.8
香川県	120	86	121	34	-35	39.5	-28.9	0.4
愛媛県	1,432	1,686	1,550	-254	136	-15.1	8.8	4.4
その他	4,216	4,440	3,119	-224	1,321	-5.0	42.4	13.1
流入超過数	9,841	12,151	12,968	-2,310	-817	-19.0	-6.3	-

(2) 通勤者の流出・流入

～通勤者は11,285人の流入超過，流入超過数は2割以上縮小～

他都道府県を従業地として広島県から流出している通勤者は18,005人で，平成7年と比べ1,782人(11.0%)増加している。

これを県別にみると，岡山県への流出が最も多く8,294人で，他都道府県へ流出している通勤者の46.1%を占めており，次いで，山口県の5,299人(同29.4%)，島根県の843人(同4.7%)となっている。

一方，広島県を通勤地として他都道府県から流入している通勤者は，29,290人で，平成7年と比べ1,501人(4.9%)減少している。

これを県別にみると，岡山県からの流入が最も多く13,030人で，他都道府県から流入している通勤者の44.5%を占めており，次いで山口県の9,592人(同32.7%)，愛媛県の1,363人(同4.7%)となっている。

この結果，通勤者は，11,285人の流入超過となっているが，平成7年と比べると3,283人(22.5%)縮小している。(統計表：第4 2表)

表7 通勤者の本県からの隣接県への流出及び隣接県から本県への流入

(単位：人，%)

都道府県	実数			増加数		増加率		割合 (平成12年 2000)
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	
流出	18,005	16,223	12,766	1,782	3,457	11.0	27.1	100.0
鳥取県	198	138	63	60	75	43.5	119.0	1.1
島根県	843	613	371	230	242	37.5	65.2	4.7
岡山県	8,294	6,986	5,536	1,308	1,450	18.7	26.2	46.1
山口県	5,299	5,116	4,188	183	928	3.6	22.2	29.4
香川県	155	137	69	18	68	13.1	98.6	0.9
愛媛県	620	496	438	124	58	25.0	13.2	3.4
その他	2,596	2,737	2,101	-141	636	-5.2	30.3	14.4
流入	29,290	30,791	27,748	-1,501	3,043	-4.9	11.0	100.0
鳥取県	98	71	80	27	-9	38.0	-11.3	0.3
島根県	1,263	1,479	1,447	-216	32	-14.6	2.2	4.3
岡山県	13,030	13,433	12,018	-403	1,415	-3.0	11.8	44.5
山口県	9,592	10,107	9,671	-515	436	-5.1	4.5	32.7
香川県	103	75	106	28	-31	37.3	-29.2	0.4
愛媛県	1,363	1,605	1,507	-242	98	-15.1	6.5	4.7
その他	3,841	4,021	2,919	-180	1,102	-4.5	37.8	13.1
流入超過数	11,285	14,568	14,982	-3,283	-414	-22.5	-2.8	-

(3) 通学者の流出・流入

～通学者は1,444人の流出超過，流出超過数は4割縮小～

他都道府県を通学地として広島県から流出している通学者は4,357人で，平成7年と比べ1,784人（29.1%）減少している。

これを県別にみると，岡山県への流出が最も多く2,811人で，他都道府県へ流出している通学者の64.5%を占めており，次いで，山口県の644人（同14.8%），愛媛県の209人（同4.8%）となっている。

一方，広島県を通学地として他都道府県から流入している通学者は2,913人で，平成7年と比べ811人（21.8%）減少している。

これを県別にみると，山口県からの流入が最も多く1,287人で，他都道府県から流入している通学者の44.2%を占めており，次いで岡山県の1,071人（同36.8%）となっている。

この結果，通学者は1,444人の流出超過となっているが，平成7年と比べると973人（40.3%）縮小している。（統計表：第4-3表）

表8 通学者の本県からの隣接県への流出及び隣接県から本県への流入

（単位：人，%）

都道府県	実数			増加数		増加率		割合 (平成12年 2000)
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	
流出	4,357	6,141	5,100	-1,784	1,041	-29.1	20.4	100.0
鳥取県	5	3	1	2	2	66.7	200.0	0.1
島根県	30	38	23	-8	15	-21.1	65.2	0.7
岡山県	2,811	4,020	3,442	-1,209	578	-30.1	16.8	64.5
山口県	644	1,071	1,062	-427	9	-39.9	0.8	14.8
香川県	22	32	12	-10	20	-31.3	166.7	0.5
愛媛県	209	279	176	-70	103	-25.1	58.5	4.8
その他	636	698	384	-62	314	-8.9	81.8	14.6
流入	2,913	3,724	3,086	-811	638	-21.8	20.7	100.0
鳥取県	6	4	-	2	4	50.0	-	0.2
島根県	88	86	34	2	52	2.3	152.9	3.0
岡山県	1,071	1,486	1,156	-415	330	-27.9	28.5	36.8
山口県	1,287	1,637	1,638	-350	-1	-21.4	-0.1	44.2
香川県	17	11	15	6	-4	54.5	-26.7	0.6
愛媛県	69	81	43	-12	38	-14.8	88.4	2.4
その他	375	419	200	-44	219	-10.5	109.5	12.9
流入超過数	-1,444	-2,417	-2,014	973	-403	-40.3	20.0	-

(4) 市町村の流出・流入人口

～広島市の流入超過数が最も多い～

流入・流出入口を市町村別にみると、他市町村への流出が最も多いのは広島市の59,304人で、次いで福山市の27,423人、廿日市市の23,309人となっている。

一方、他市町村からの流入が最も多いのは広島市の96,780人で、次いで福山市の40,425人、呉市の22,369人となっている。

また、流入超過数が最も多いのは、広島市の37,476人で、次いで福山市の13,002人、三次市の3,716人となっており、流出超過数が最も多いのは、廿日市市の10,459人で、次いで神辺町の6,993人、熊野町の6,315人となっている。(統計表:第5表)

表9 流出入口及び流入人口の多い市町村(上位10位)

(単位:人)

順位	流出入口		流入人口	
	市町村名	実数	市町村名	実数
1	広島市	59,304	広島市	96,780
2	福山市	27,423	福山市	40,425
3	廿日市市	23,309	呉市	22,369
4	呉市	19,924	府中町	20,270
5	東広島市	18,422	東広島市	18,018
6	府中町	16,704	廿日市市	12,850
7	神辺町	12,828	尾道市	12,525
8	尾道市	12,230	海田町	10,527
9	海田町	9,886	三原市	10,467
10	三原市	8,868	府中市	8,628

表10 流入超過数及び流出超過数の多い市町村(上位10位)

(単位:人)

順位	流入超過数		流出超過数	
	市町村名	実数	市町村名	実数
1	広島市	37,476	廿日市市	10,459
2	福山市	13,002	神辺町	6,993
3	三次市	3,716	熊野町	6,315
4	府中町	3,566	大野町	3,575
5	府中市	2,745	向島町	3,070
6	呉市	2,445	黒瀬町	2,978
7	千代田町	1,611	安浦町	2,882
8	三原市	1,599	音戸町	2,867
9	坂町	1,185	新市町	2,136
10	庄原市	1,082	川尻町	1,906

3 昼間人口

(1) 広島県の昼間人口

～昼間人口は2,885,973人、夜間人口を9,605人上回る～

平成12年の広島県の昼間人口は2,885,973人で、平成7年と比べ5,249人(0.2%)減少している。

夜間人口は2,876,368人で、平成7年と比べ2,950人(0.1%)減少している。

昼間人口と夜間人口の差をみると、昼間人口が夜間人口を9,605人上回っているが、平成7年と比べると、2,299人(19.3%)縮小している。

その結果、平成12年の昼夜間人口比率(夜間人口(常住人口)100人当たりの昼間人口)は100.3となり、平成7年と比べ0.1ポイント縮小している。(統計表:第6表)

表11 昼間人口、夜間人口の推移

(単位:人,%,ポイント)

区分	実数			増加数		増加率	
	平成12年 (2000)	平成7年 (1995)	平成2年 (1990)	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	平成2年 ～7年
昼間人口	2,885,973	2,891,222	2,856,257	5,249	34,965	0.2	1.2
夜間人口	2,876,368	2,879,318	2,843,551	2,950	35,767	0.1	1.3
昼夜間差	9,605	11,904	12,706	2,299	802	19.3	6.3
昼夜間人口比率	100.3	100.4	100.4	0.1	0.0	-	-

昼間人口及び夜間人口は、年齢不詳を除いているので、夜間人口(常住人口)と国勢調査確定人口(2,878,915人)とは、一致しない。

(2) 市区町村別昼夜間人口比率

～広島市中区の昼間人口は夜間人口の約2倍～

昼夜間人口比率を市区町村別にみると、最も高いのは広島市中区の201.3で、次いで宮島町の120.0、千代田町の114.8、広島市南区114.7、吉和村の114.5の順となっている。

一方、最も低いのは熊野町の75.0で、次いで安浦町の77.4、広島市佐伯区の78.3、口和町の78.8、内海町80.6の順となっている。

県内94市区町村のうち、昼夜間人口比率が100を下回っているのは64市区町村となっており、うち33市区町村で90を下回っている。

表 1 2 市区町村別昼夜間人口比率の高い市区町村（上位 10 位）

順位	平成12年		平成7年		平成2年	
	市区町村	昼夜間人口比率	市区町村	昼夜間人口比率	市区町村	昼夜間人口比率
1	広島市中区	201.3	広島市中区	205.4	広島市中区	196.2
2	宮島町	120.0	吉和村	115.3	府中町	114.3
3	千代田町	114.8	千代田町	115.1	広島市南区	111.0
4	広島市南区	114.7	坂町	115.1	吉和村	110.4
5	吉和村	114.5	宮島町	113.7	加計町	110.2
6	加計町	110.0	広島市南区	112.9	上下町	110.2
7	東野町	109.5	東野町	110.7	三次市	110.1
8	坂町	109.4	三次市	110.1	千代田町	109.7
9	三次市	109.4	府中町	109.7	東野町	109.1
10	上下町	108.8	加計町	109.2	吉田町	108.3

同順位の場合は小数点第 2 位を算出して順位をつけた。

表 1 3 市区町村別昼夜間人口比率の低い市区町村（上位 10 位）

順位	平成12年		平成7年		平成2年	
	市区町村	昼夜間人口比率	市区町村	昼夜間人口比率	市区町村	昼夜間人口比率
1	熊野町	75.0	熊野町	73.1	熊野町	74.1
2	安浦町	77.4	広島市佐伯区	75.9	広島市佐伯区	76.9
3	広島市佐伯区	78.3	安浦町	77.1	神辺町	78.5
4	口和町	78.8	口和町	77.8	安浦町	78.9
5	内海町	80.6	神辺町	79.5	口和町	79.1
6	音戸町	80.7	音戸町	79.6	福富町	79.4
7	福富町	81.2	広島市安芸区	80.7	下蒲刈町	80.7
8	向島町	81.5	広島市安佐北区	81.2	音戸町	81.1
9	川尻町	81.6	内海町	81.3	広島市安佐北区	82.0
10	布野村	81.7	布野村	81.7	君田村	82.6

同順位の場合は小数点第 2 位を算出して順位をつけた。